

町の無料相談

相談種類		日にち	時間	相談場所	申込み・問合せ
法律相談	弁護士	5/14(火)、5/27(月) 6/11(火)、6/24(月)	13:30~16:00	役場会議室	役場総務課☎④313 (要予約)
	行政書士	5/15(水)、6/19(水)	10:00~15:00	役場会議室	役場総務課☎④313
人権・行政相談		5/10(金)、6/13(木) 6/3(月)(人権相談のみ)	13:30~16:00	役場会議室	役場総務課☎④313
成人健康相談		7/2(火)	10:00~11:00	保健センター	保健センター☎294-5511
		6/3(月)	10:00~11:00	役場1階町民ホール	
電話健康相談		平日	9:00~17:00	保健センター☎294-5511	
育児ほっと相談室		5/22(水)、6/20(木)	10:00~11:00	保健センター	保健センター☎294-5511
もの忘れ相談会		毎月第3木曜日	10:00~12:00	中央公民館	地域包括支援センター ☎295-2112④126
子育て相談 なんでも話してみよう		平日 ※オンライン相談あり	10:00~15:00	役場相談室 子育て支援センター	子育て支援センター ☎294-4820 (要予約)
教育相談		平日	10:00~16:30	教育センター☎295-2525 (電話相談可)	
心配ごと相談		平日	8:30~17:00	社会福祉協議会(毛呂山町川角303-3) ☎295-0601	
消費生活相談		毎週月・火曜日	10:00~15:00	役場相談室	役場産業振興課
生活困窮者自立相談 ※生活保護受給者以外		平日	8:30~17:00	アスポート相談支援センター埼玉西部毛呂山出張所 (社会福祉協議会内) ☎080-2274-1445	

歴史散歩

第359回

毛呂山町の養蚕

明治時代から昭和時代に毛呂山町域で盛んに行われていた養蚕。当時はあちらこちらに蚕の餌となる桑の畑が広がっていました。養蚕とは、カイコガの幼虫・蚕に桑の葉を食べさせて飼育し、蛹になる時に作る繭を収穫する一連の作業です。

毛呂山町の養蚕の歴史は、江戸時代中期まで遡るといわれています。江戸時代には、現在の小川町や越生町、飯能市といった外秩父山地の裾野にあたる地域では、養蚕と絹織物を織る機織で栄えていましたが、当時の毛呂山でも小規模ながら養蚕と機織が始まりました。

明治時代に入ると、養蚕の技術が普及・発展し、明治26年(1893)8月には、旧山根村の滝ノ入に泉合資会社が設立されました。周辺地域で産出される生糸を原料にして、主に羽二重といわれる絹織物を生産し、海外に輸出していました。泉合資会社の絹織物は内国勸業博覧会に出品し、何度も入賞していることから、品質が高かったことがうか

がえます。明治36年(1903)には、工場を旧毛呂村の毛呂本郷に移転し、資本金10万円、従業員200名の大工場に発展しました。ところが、明治41年(1908)に経済界の不振が事業に影響を与え、工場は閉鎖することになりました。

しかしその後も、現在の毛呂山町域では養蚕が盛んに行われ、明治45年(1912)には、養蚕農家戸数が全農家戸数の約81パーセントにもなりました。

大正時代になると、第一次世界大戦の影響で主要農産物の価格が下落したことから、農家の収入源は養蚕に頼るようになりました。そこで、今までの以上の収入の増加を図るために、蚕種の品種改良による品質向上と、蚕室や蚕具の改良による作業の効率性が高められました。その結果、大正15年(1926)頃には、旧毛呂村では繭の生産額が米麦の2倍にもなりました。

昭和時代に入ってから、繭の価格の浮き沈みはありましたが、養蚕が農家の副業として貴重な現金収入になったことに変わりはなく、昭和50年代ごろまで多くの農家が養蚕に携わっていました。



昭和初期の養蚕風景。蚕棚を作り、その上で桑を与えて蚕を飼育していました。